

会員の声 地理・歴史学者ダイヤモンド氏の朝日新聞記事を読んで

朝日新聞の記事

2012年 1月 3日付・朝日新聞のオピニオン・コーナーに「インタビュー 2012文明崩壊への警告」なる記事があるのを友人が見つけて私に送ってきた。朝日新聞購読者が多くいるのは事実であるが、一方極端に毛嫌いな人々がいるのもまた事実である。私も最近新聞は一切購入していない部類の人間だが、インタビューされたダイヤモンド氏が私の愛読書の著者であったのと、あの朝日新聞がこの原発事故後「脱原発」に日本が揺れ動いている時期に、なぜ取り上げたのか疑問が生じてすべて読んでしまった。

書き出しは以下の通りであり、その後に Q&Aを紹介してみたい。

《ずっと続くはずだった日常が突然崩れることがある。私たちは昨年、それを思い知らされた。本紙読書面が選ぶ 2000年代に記憶に残った 50冊で 1位となった「銃・病原菌・鉄」の著者、ジャレド・ダイヤモンド氏は、過去に崩壊した社会の分析から、さらに大きな災厄を警告する。環境破壊と人口爆発による「文明崩壊」だ。》大きな見出しは以下の三つであり、それが結論であり、要約であるかと思うのでまず紹介しよう。

- ①環境問題で滅びたマヤやイースター地球は孤立した島
- ②温暖化の方が深刻原発を手放すな
- ③先進国は消費水準落とせ今回は、

②について Q&Aを紹介しよう。朝日新聞記者の質問が、自分の意図した答えが出ない経緯がこの記事から読み取れるのは私だけであろうか。

Q1:現代文明の崩壊は避けられないのでしょうか。

A1:そんなことはありません。過去にも共存できる社会を作り上げた例は数多くあります。・・・日本は、世界でもっとも環境に恵まれた国のひとつです。・・・社会を存続させる秘訣は、結婚生活が続ける秘訣と同じ。結婚生活が続けるには、夫婦の間のあらゆる問題で合意や妥協が必要です。・・・

Q2:日本は昨年、東日本大震災を経験しました。天災が文明の崩壊につながる可能性はないのですか。

A2:一度にたくさんの方が死亡する可能性のある事故、人間の力ではコントロールできないと感じる事故について、人々はリスクを過大評価しがちです。日本をおそった地震と津波は確かに大惨事でしたが、長期的にはずっと多くの人々が、交通事故、たばこ、お酒、塩分の取りすぎが原因で死んでいます。

Q3:福島原発事故については、どう考えますか。

A3:決して福島の悲劇を軽んじるつもりはありませんが、原発事故もまた「リスクが過大評価されがちな事故」の典型例です。私たち米国人もスリーマイル島原発の事故の後、一人の死者も出なかったのに、新しい原発の建設をやめてしまいました。原子力のかかえる問題は、石油や石炭を使い続けることで起きる問題に比べれば小さい、と考えるからです。

Q4:放射能で環境が汚染されるリスクがあっても、原発を使い続けた方がよい、ということですか。

A4:たとえ原子力の利用をやめたとしても、しばらくは化石燃料にたよるざるをえません。過去 70年間、放射能で健康を損ねた人よりもはるかに多くの人々が、化石燃料を燃やすことによる大気汚染の被害に苦しんできました。

Q5:放射能は人間の遺伝子を傷つけ、子どもたちへの影響が心配です。放射性廃棄物は 10万年以上もの間、危険な放射線を出し続けます。

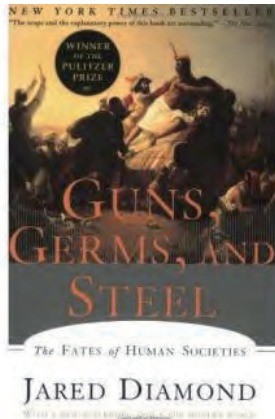
A5:確かにその通りですが、放射能の危険性と同時に、化石燃料の危険性も考えるべきです。二酸化炭素による地球温暖化はすでに、大きな被害をもたらすサイクロンなどの熱帯低気圧を増やしています。放射性廃棄物は地下深くに封じこめられますが、放出された二酸化炭素は 200年間大気中にとどまるのです。「いま一度、『現実的になろう』と言わせてください。原発事故や地震で文明が続く可能性がそこなわれることはありませんが、二酸化炭素は現代文明の行く末を左右しかねない問題なのです」以上が『温暖化の方が深刻原発を手放すな』に関するすべてであり、新聞記事を引用させて頂いた。



取材記者のコラムを読んで

米国人の「時空を超える地理・歴史学者」ジャレド・ダイアモンド氏の発言であって、放射線医療専門家でもなく、またエネルギー専門家でもない人の意見をなぜ信用できるのかと思われるかも知れない。

それに関連して、この特集記事は、インタビューアーが太田啓之と実名を掲載しており、「取材を終えて」の中に以下のコラムがあることを紹介しよう。子どものころ、イースター島の巨石像の謎に胸をときめかせた。「異星人がモアイをつくった」という説も半ば信じたほどだ。最近になってダイアモンドさんの本を読み、驚いた。私たちとイースター島の人々は同じ問題を抱えていたのだ。異星人説を上回る興奮を覚えた。「人間の知性は時間と空間を超えられる」と示してくれた人に、ぜひとも会ってみたいくなった。こんな知的冒険をやっている人が、頑なな心の持ち主であるはず



がない ー。

想像していた通り、ダイアモンドさんは気さくで、柔らかいまなざしの持ち主だった。そんな人が警告する文明崩壊だからこそ、いたずらに危機をあおり立てることでは得られない説得力がある。意外だったのは原発推進を主張したことだ。放射能との共存を選ぶのが、彼の言う「現実的」ということなのか。現代文明の業の深さが心に重くよどんだ。

人類が歩んできた地球全体の歴史、人類が作り上げてきた前述したように、この引用し文明を掘り下げて研究し本に著して世に訴えてきた人であつた新聞記事は、ジャレド・ダイリ、朝日新聞も読者の評判を素直に受けてインタビューしアモンド氏の本 “Collapse”， たのであって、偽環境学者でないことは理解できるであろう “The Third Chimpanzee”， う。一時的な感情でもって物事を判断せず、過去の歴史を “guns, germs and steel” を読ん顧み、現実を科学的にみて、将来を透視する生き方、考えたらと薦めてくれた友人が送っ方が必要と感じた次第である。てくれたものである。（Y.S. 記）